

## 2019年8月9日「観光・ブランディングシンポジウム in 北海道」

### 来賓挨拶 北海道観光振興機構会長 堰八 義博

皆様こんにちは。北海道観光振興機構の堰八でございます。地元の観光関連団体を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日はこのような素晴らしいシンポジウムを当地北海道で開催いただきますところ、宿利会長をはじめ、運輸総合研究所の皆様に心から感謝を申し上げます。

現状の北海道経済は緩やかな回復基調をたどっております。とりわけ観光の好調さがリードする大きな要因となっております。そういった中で本日のテーマである観光ブランディングは私どもにとって時機を得たテーマであり、本日の各プログラムも大変楽しみにさせていただいているところでございます。

さて、北海道庁の公表したデータによりますと、平成30年、歴年の北海道の観光入込客数は、外国人来道者数が前年比12.9%増の298万人と引き続き好調に推移しております。国内額を合算した入込客数全体では、昨年北海道胆振東部地震が発生した影響もありまして国内客の方が若干減少、マイナスの1.3%ということで、合計はマイナスの1.3%で5513万人というふうになっております。

しかしながら、これからの北海道の観光を考えますと、目先ではラグビーのワールドカップ札幌の試合開催、10月のニセコでのG20の観光大臣会合、来年4月の民族共生象徴空間 国立博物館ウポポイの開設、そして道内7空港の一活民間委託、さらにはその先には北海道新幹線の札幌までの延伸、そして再度札幌に冬季オリパラを招致しようという流れがありまして、明るい材料が目白押しでございます。

さらに今年は12月に待望のヨーロッパ線の直行便が復活をいたします。新千歳、ヘルシンキとオーストラリアのシドニー線が季節運航ながら、この12月に就航すると、こういった明るい話題もございます。

北海道の目標であります2020年度の外国人来道者数500万人、観光入込客数総体で6000万人を実現するためには、これらの追い風に加えて、魅力的な観光資源の発掘、あるいは磨き上げや北海道に求められる観光客の方がたが、安心便利に全道を周遊することができる受入環境の整備などをさらに強化していくとともに、お越しになられる方がたの嗜好や目的などを的確に把握するマーケティングや、本日のシンポジウムのテーマである北海道観光のブランディングが大変重要であるというふうに認識をいたしております。

本日も講演ならびにパネリストをお務めいただく並木様、山本様はブランディング・マーケティングの第一人者でいらっしゃいます。お二人には、ぜひ北海道観光に対する様々なご示唆を頂戴できればなと思っております。

最後になりますけれども、本日のシンポジウムを開催していただくことに対しまして、改めて感謝申し上げます。御礼のご挨拶にかえさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

(当日御挨拶を基に運輸総合研究所編集)